

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

口永良部島では、10時00分に、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

口永良部島では、9月2日以降、振幅のやや大きな火山性地震が増加し、本日（4日）はさらに増加しています。また、継続時間が1分程度の火山性微動が本日1回発生しています。

このことから、口永良部島では火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

○ 活動概況

・地震、微動活動（図1、図2）

火山性地震は、9月2日以降振幅のやや大きな地震が増加し、本日（4日）はさらに増加しています。8月の月回数148回、9月に入って昨日まで23回、本日は11時まで58回（速報値）発生しています。震源は、主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しています。

また、継続時間の短い火山性微動が、8月に4回、9月は本日11時までに2回（速報値）発生しています。

・噴気など表面現象の状況（図3）

遠望カメラ（新岳火口の北西約3km）の観測によると、新岳・古岳の噴気に変化はありません。

・地殻変動（図5、図6）

GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる大きな変化は観測されていません。

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しました（承認番号：平17総使、第503号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）、福岡管区気象台ホームページ（<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>）でも閲覧することができます。

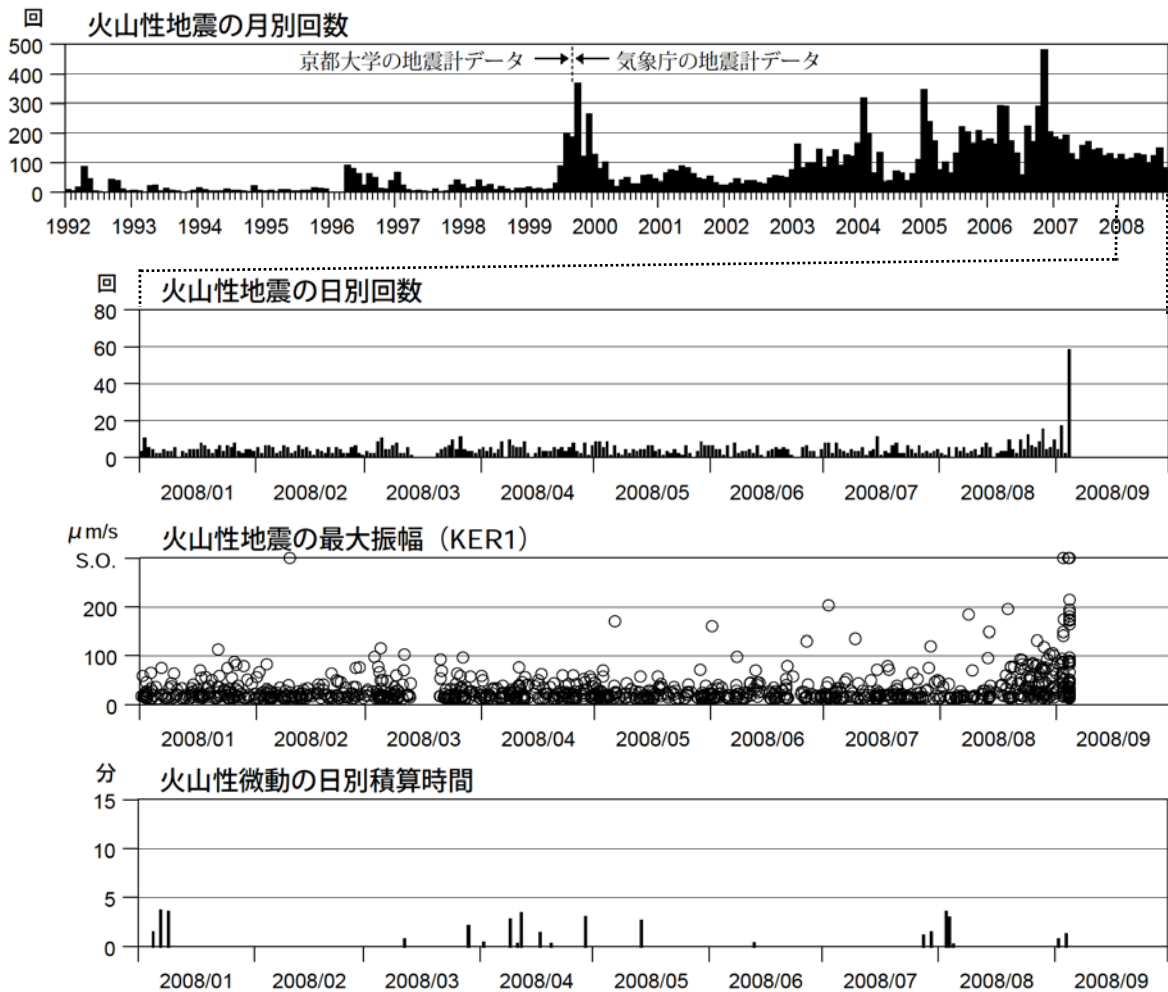


図1※ 口永良部島 火山活動経過図(1992年1月1日～2008年9月4日11時)
・9月2日以降、振幅のやや大きな火山性地震が増加しています。

*1992年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日間は京都大学のデータを使用しました。
*2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計KER1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計KER1の機器障害のため、地震計KER3で回数を計数しました。2008年3月13日～3月20日まで地震計KER1の機器障害のため欠測しました。

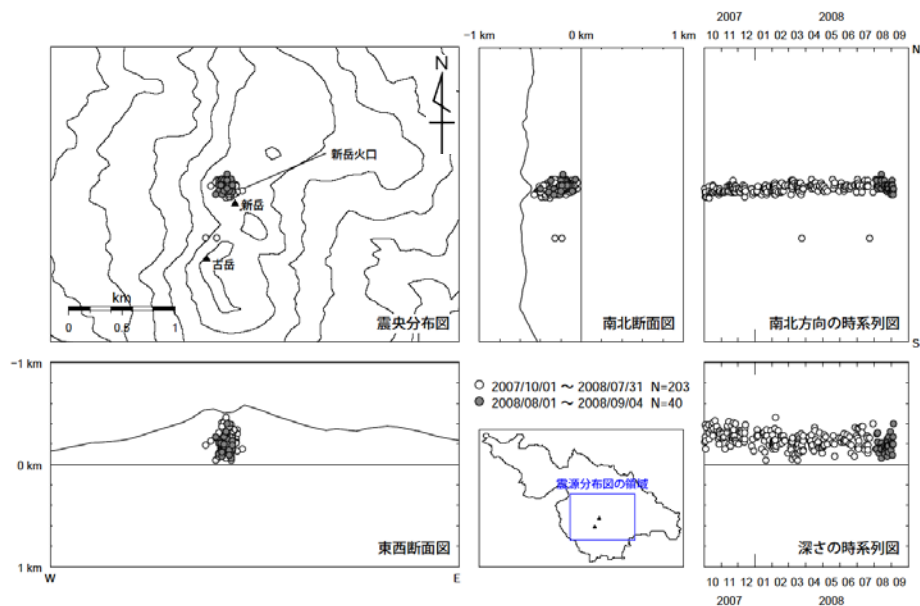


図2※ 口永良部島 震源分布図(2007年10月～2008年9月4日11時)
震源は、これまでと同様に新岳火口直下のごく浅い所に分布しています。



図3 口永良部島 2008年9月4日10時17分の映像
新岳火口の北西約3kmに設置している遠望カメラでは、今のところ新岳や古岳の噴気等に大きな変化は見られません。

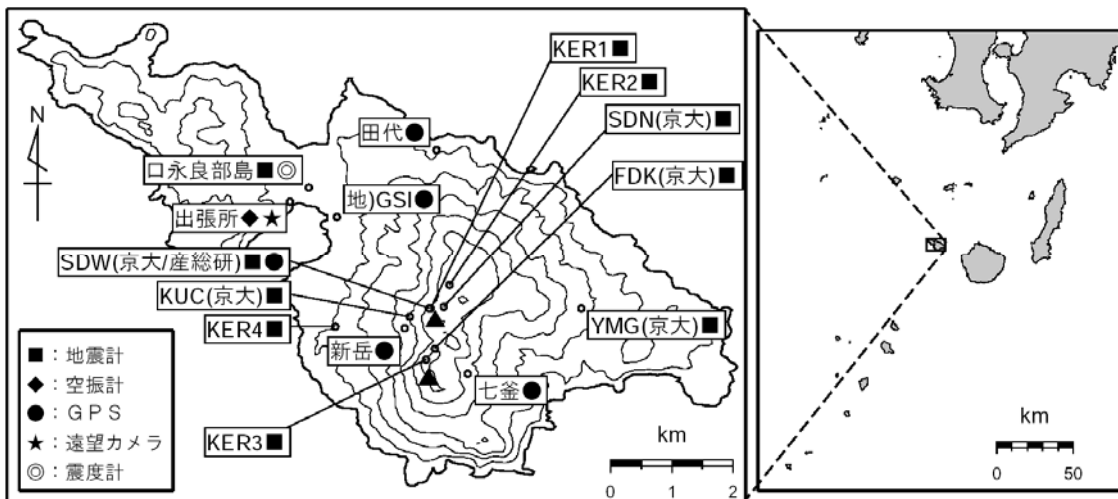


図4 口永良部島 観測点配置図

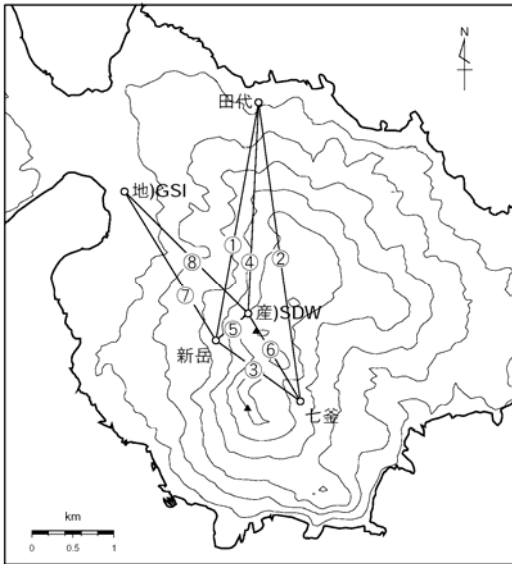


図5 口永良部島 GPS 連続観測基線図

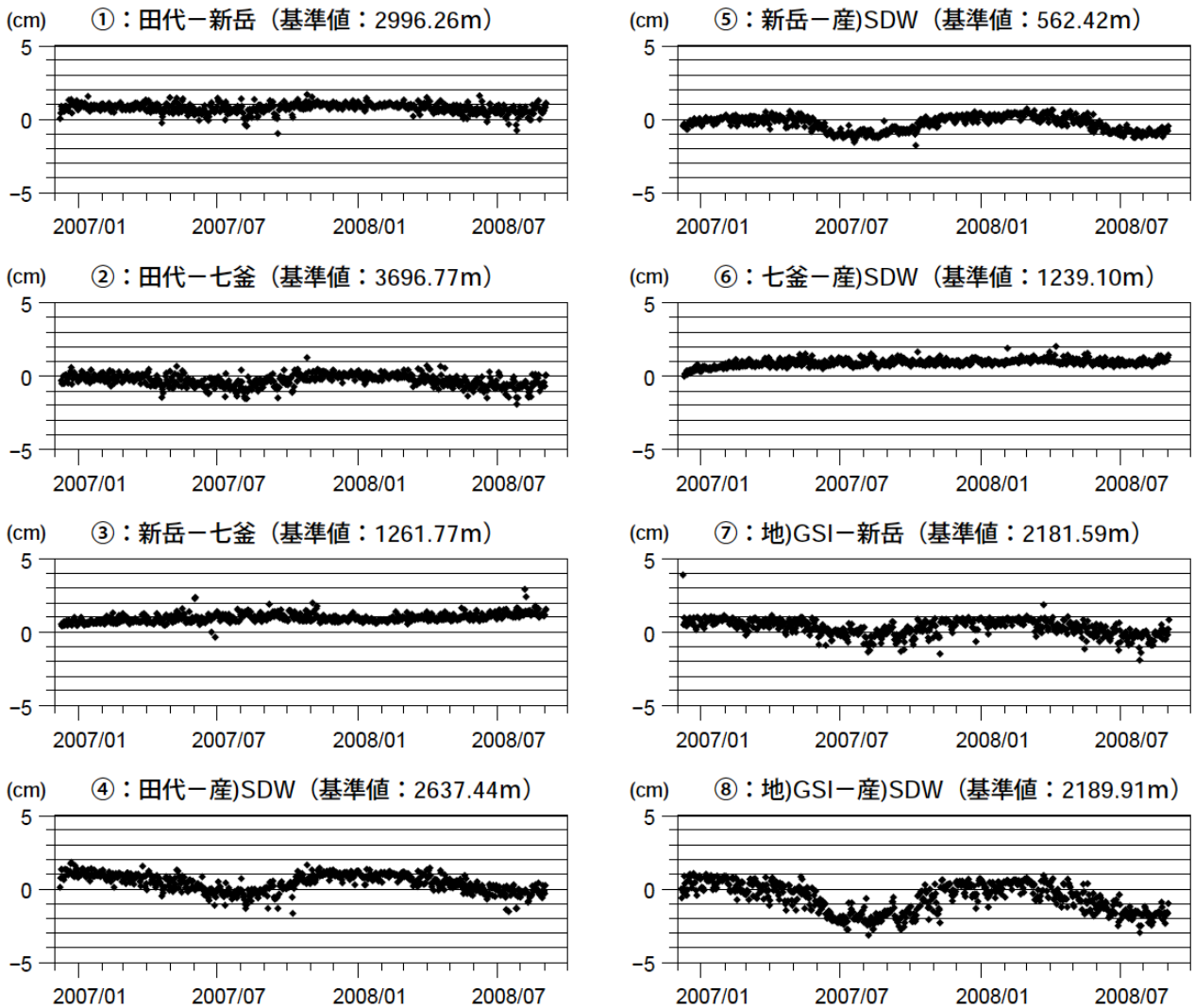


図6※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006年12月8日~2008年9月4日)
火山活動に起因するとみられる大きな変化は観測されていません。この基線は図5の①~⑧に対応しています。